

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	親子の居場所・学び場としての絵本館の運営
事業名(副)	

※任意
入力数 主 20 字 副 0 字

実行団体名	一般社団法人北海道ブックシェアリング
資金分配団体名	認定NPO法人北海道NPOファンド

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input type="radio"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input type="radio"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input type="radio"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="radio"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input type="radio"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="radio"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input type="radio"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	
------------------------	--

入力数 0 字

SDGsとの関連

ゴール
_4.質の高い教育をみんなに
_3.すべての人に健康と福祉を

実施時期	2020年10月 ~ 2021年09月	事業対象地域	特定地域（道央圏＝札幌市・江別市・当別町・石狩市・北広島市等）	事業対象者： （事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む）	週末を安心して過ごすことを希望する親子。学びや育みの不安の解消を求める親子。	事業対象者人数	約500人
------	---------------------	--------	---------------------------------	---------------------------------------	--	---------	-------

I. 団体の社会的役割

(1)申請団体の目的
当法人は、「格差に左右されない読書機会」と「人生のさまざまな場面で役立つ未来志向の読書空間」の創造を目的とする。収入・地域・年齢などによって読書機会の有無や充実度が左右されることなく、読みたい気持ち、学びたい気持ちに応えられる社会を目指すとともに、図書施設の機能充実を図り「人生のさまざまな場面で役立つ空間」「安心安全や約束する快適な空間」「まちづくり・未来づくりに寄与する空間」となることを目指す。
(2)申請団体の概要・事業内容等
本会は、読書環境の整備支援として読み終えた本を再利用する「ブックシェアリング事業」や、図書や読書に関するニーズに応える「ぶっくらぼーとー事業」、情報共有や提供を進める「ぶっくらぼ事業」を進めています。東日本大震災や北海道胆振東部地震の被災地では長期にわたる復旧復興支援を実施しました。2020年4月には「北海道学校図書館づくりサポートセンター」を開館。小規模自治体の学校図書館の支援を進めています。

入力数 (1) 200 字 (2) 200 字

II. 事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
本会はこれまでの13年の活動を通じて学校などの教育機関との連携や情報共有を進めてきました。今回の新型コロナウイルスの影響下においては「社会や地域から孤立したり、孤立しつつある親子が増えている」ということ、「癒しや学びの場として図書施設の需要が高いが、学校図書館は小学生、あるいは中学生しか利用できず、公共図書館は小さな子ども連れで利用しづらい。小さな子どもを持った親子が安心して過ごせる図書施設が少ない」との情報を得ています。また地域との連携を進めているNPOからは「家に居場所のない母子や、家に続けることで疲弊感を感じている家族、生活の窮乏から文化的リソースの獲得手段を失い、そのことによって幼児の知的・情操的発達に不安を感じている親など、新型コロナウイルスの影響下での生活が半年も過ぎると、さまざまな生き辛さが生じている」との情報を得ました。昨今の感染拡大の状況を見ると、このような環境が今後も続くことが予想され、家族・家庭にとって、とても大きな心的負担や大きな代償を伴う疲労につながっていくのではという危惧が増えています。

入力数 465 字

III.事業内容

(1)事業の概要

本会が運営する「北海道学校図書館づくりサポートセンター」（江別市、蔵書約3000冊）を、月に4回（毎月第1、第3土日）、「親子のための絵本館」として無料開放し、居場所として利用してもらうほか、それぞれの分野の専門家による絵本セミナー、手づくりワークショップ、絵本セラピー、学びの教室などの無料講座を開き、くつろぎと育みと学びの機会を創出する。利用は予約制で、ソーシャルディスタンスの確保と、プライバシーの観点から、一日最大12人までとする。また、社会福祉や大学連携、若者の交流、児童クラブなどの機関を持つ大麻銀座商店街というロケーションと連携を活かし、暮らしのバックアップにつなげていく。

入力数 294 字

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態

地域から孤立する家族を少しでも減らし、また幼児期の学びに不安を持つ親に対する図書や教育分野の専門家のアドバイスやアプローチにより、悩みの解消に寄与する。また情報収集やヒアリングなどを通じながら、ニーズに即した孤立阻止の体制を構築していく。

入力数 119 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
居場所や育み・学びの必要性を感じる親子、延べ500人に対して、適切な場と時間を提供する。同時にニーズに耳を傾けながら、新型コロナウイルス時代における図書施設の新たな役割として、「居場所づくり」「連携づくり」「情報収集」などの事業体制を構築する。	来館者数 ヒアリングメモ数 アンケート数 講座の回数と参加者数	来館者数のカウントおよびヒアリングメモとアンケート 関係者間でのミーティング記録 講座記録	参加者延べ500人 講座40回の実施 講座参加者400人	達成2021年12月

(4)活動

活動	時期
アナウンス①（関係機関や施設へのチラシ・パンフレットの郵送および設置 ※以降、3カ月毎に実施）	2020年10月
アナウンス②（札幌駅前通地下歩行空間での告知イベント ※以降、毎月実施）	
アナウンス③（報道機関へのリリース ※以降、3カ月毎に実施）	
第1回親子のための絵本館開始（2020年10月3日。以降、2021年9月まで毎月第1、第3土日に実施）	2020/10/3～2021年12月
第1回親子のための講座開始（2020年10月3日。以降、2021年9月まで毎月第1、第3土日に実施）	
関係者による2020年度中間報告会を実施(中止)	2020/12/1(中止)
年度末報告会開催 2021年度体制に向けた協議を実施	2021年03月
関係者による2021年度中間報告会を実施	2021年10月
事業終了に伴う報告会を実施 実施報告書の制作	2021年12月

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	荒井宏明 事業統括(専従職員) 事業実施計画の策定および運営。会議・報告会の計画・運営。各種報告書の制作。 竹次奈映 事業担当 事業実施の運営。記録および広報。会計責任者。 橋本正彦 事業担当 事業実施の運営。関係機関等の調整・連絡。 千葉正和 事業担当 会議・報告会の運営 神崎かをる 事業担当 事業実施の運営 真木早苗 事業担当 事業実施の運営 秋元さなえ 専門員 ワークショップなどの企画立案・運営 太田 利実 専門員 絵本に関する講座・講習の企画立案・運営
(2)他団体との連携体制	「北海道えほんの森」 広報協力。講座企画の立案協力・講師派遣 「3.11SAPPORO SYMPO」 広報協力。講座企画の立案 「まちライブラリー」 広報協力。図書に関する情報共有 「NPO法人みなと計画」 大学生・若者による運営補助に関する協力 「大麻銀座商店街振興組合」 広報協力
(3)想定されるリスクと管理体制	絵本館の運営事業および講座事業での感染リスクについて 運営側 ①検温の徹底②マスクの着用③ソーシャルディスタンスの確保④施設や設備、本や書架の定期的なアルコール除菌 利用者側①検温のお願い②マスク着用③複数家族が利用する場合はソーシャルディスタンスの確保のお願い 個人情報取り扱いについて ①アンケートやヒアリングメモの取り扱い担当者の設置および保管体制の整備 ②アンケートやヒアリングメモのコピー・複写・破棄のルール化 ③その他利用者に関するデータ・資料・記録の取り扱い担当者の設置および保管体制の整備

V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無				
コロナウイルス感染症に係る事業				
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有	無 ○	有の場合 その詳細	
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無 ○		※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）	
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績				
東日本大震災被災地の支援事業として、宮城県石巻市に図書室を開設。児童書や絵本を中心に約8000冊の図書を揃え、被災地の家族や人々の居場所や学び・育みの場として1年半にわたって運営。				
宮城県郷土関係論文目録 東日本大震災被災地における読書環境の復興支援 https://eichi.library.pref.miyagi.jp/da/detail?data_id=010-133926-0				